

平成23年度 政策評価書（事前の事業評価）要旨

担当部局等名：防衛政策局防衛計画課

評価実施時期：平成23年6月～平成23年8月

事業名	88式地对艦誘導弾システム（改）	政策体系上の位置付け
		装備品等の整備
事業の概要等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の概要 地对艦ミサイル連隊に装備し、洋上の艦船を撃破するために使用する装備品として、射撃に関する能力及び残存性を向上させた88式地对艦誘導弾システム（改）を導入する。 ○ 所要経費 約120億円（後年度負担及び初度費を含む。） ○ 事業実施の時期 平成24年度に2式を調達し、平成26年度に取得する予定である。 	
政策評価の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要性 現有88式地对艦誘導弾は、敵の対艦ミサイル対処能力向上等により残存性が低下するとともに、目標識別能力が低い状況にある。したがって、残存性及び目標識別能力を向上し、将来の効果的な対艦船戦闘が可能な88式地对艦誘導弾システム（改）が必要である。 ○ 効率性 構成品である無線機、車両等については、別途調達を行い官給することにより、二重に掛かるGCIPを防止している。 ※GCIP：一般管理及び販売費率（GC）、支払利率（I）及び利益率（P） ○ 有効性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 敵の艦船等に対する射撃において、遠方化する艦船の停泊地に有効に対処可能 ・ 目標識別能力の向上により、射撃の効率化が可能 ・ 高射角射撃能力により部隊の残存性を向上するとともに、陣地選定の融通性向上が可能 ・ 多種の洋上目標に対処可能であり、着上陸侵攻時の侵攻基盤に対する継続的制圧が可能 	
総合的評価	<p>88式地对艦誘導弾システム（改）の整備により、現有装備品であるSSM-1と比較して、残存性及び目標識別能力といった性能が向上することが可能となり、技術の進歩した現代の戦闘場面において必要な能力を発揮することができ、着上陸侵攻に際して侵攻部隊の揚陸に先立ち、洋上の艦船を撃破することが可能となることから有効な事業と評価する。</p>	
政策等への反映の方向性	<p>政策評価の結果を踏まえ、2式（約120億円）について、平成24年度概算要求を実施する。</p>	